

2021年度中の再開通を目指す。

「JR只見線」全線復旧で合意!

平成23年7月の新潟・福島豪雨で不通となっていたJR只見線・只見駅と会津川口駅間(27・6キロ)の復旧に向けて、福島県とJR東日本は6月19日、県が鉄道や駅舎など鉄道施設を保有し、JR東日本が列車運行を担う「上下分離方式」で復旧させる基本合意書と覚書を県庁で締結しました。

これにより只見線は、2021年度中の再開通を目指し、JR東日本が来春から工事に着手する予定です。

只見町では、県や只見線沿線市町村と連携し、復旧後の只見線利活用に向けた取り組みなどを検討しています。この只見線については、次号の特集で詳しくご紹介します。



▲再開通に向けてこれからも手を振り続けます

町指定の文化財に認定

「成法寺観音堂・木製巡礼納札」

6月23日、只見町梁取地区にある成法寺観音堂で発見された「成法寺観音堂・木製巡礼納札」が、町指定の文化財に認定されました。

この巡礼札は、昭和40年10月、昭和41年12月に行われた成法寺観音堂の修理の際に堂内の長押裏側から発見されました。今回の指定理由は、県内で会津美里町富岡観音堂、田村郡船引町堂山王子神社に次いで古い納札であること、「熊野州三」の表記が全国的にも希有な表記であること、保存状態が良く永正時代のもので風化せず貴重であることなどがあげられます。今後は、県指定の文化財を目指し、只見の歴史を読み解く資料として活用されます。



【銘文】
永正九年 申 八月廿二日
熊野州三所巡礼
奥州会津長沼郷伊北住人妙金

▲永正9年(1512年)に書かれた巡礼札

朝日小学校に続き、只見・明和小学校と只見中学校が正式認定

町内小・中学校全てが「ユネスコスクール」に認定!

今年5月、ユネスコ(国連教育科学文化機関)は、ユネスコスクールに申請していた只見・明和小学校と只見中学校の3校を新たに正式認定し、既に平成26年に認定されている朝日小学校とともに、町内全ての小・中学校がユネスコスクールとなりました。

ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章の理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のこと、文部科学省や日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを「ESD(持続可能な開発のための教育)」の推進



▲加盟承認証を手にする関根只見小学校長(左)、小林朝日小学校長(中左)、渡部明和小校長(中右)、今井只見中学校長(右)

拠点として位置付けています。この「ESD」とは、困難な問題を考え、解決するための学びであり、持続可能な社会の担い手を育む教育のことです。各学校では「ESD」を只見学によって「只見愛」を育む教育ととらえ取り組んでいます。

只見小学校では、「海とつながる只見町」をテーマに学習を行うことから、東京大学の海洋教育のモデル校として連携して取り組んでいきます。ユネスコスクール認定3年目を迎えた朝日小学校では、町の「人・もの・こと」に直接触れる学習により「只見愛」を育み、生涯に渡って主体的に学び続ける態度の育成を実践しています。明和小学校では、伝統芸能の継承学習を中心に、地域の自然・文化・産業の学びを実践しています。只見中学校では、各小学校で培った「只見学」を踏まえ、只見からより広い世界や社会全体を考え、地域や社会に貢献する人材育成に資する教育を推進していきます。

このような取り組みを通して、ユネスコエコパークに認定された只見町の自然や歴史、文化についての理解を深め、伝統芸能の継承に取り組んでいきます。

9期生「アウトドアプランナーの育成」
人材育成ダイヤモンドプラン開講

6月7日、教育委員会が主催する「地域人材育成ダイヤモンドプラン事業」第9期生の開講式が只見町振興センターで開かれ、関係者などが出席しました。第9期生13名は、「アウトドアプランナーの育成」をテーマに、2年間の講座の中で、自然の中で活動するための企画・立案を行い実践できる野外活動のリーダーを目指します。

開講式では、角田行雄教育委員長と菅家町長が「皆さんに期待しています」と挨拶を述べ、受講生の決意表明では「世の中に只見町の素晴らしさを伝えられる人材になりたい」などとそれぞれ抱負を発表し、今後の取り組みへの期待が膨らみます。



▲開講式終了後には、1回目の講座が開かれ只見町の観光について学びました

手作りパンフレットで町をPR
町内3小学校が東京へ修学旅行

6月7〜8日、町内3小学校の6年生27名は、合同の修学旅行で訪れた東京上野公園などで只見町のPR活動を行いました。この活動は、2年前に明和小学校が始め、昨年からは町内3校合同で行っています。黄色い法被を身につめた子供たちは、町の魅力を紹介した手作りのパンフレットなどを道行く人に声を掛けて配り、「生懸命PRしました。中には「今度只見に行ってみよう」と話す人もおり、児童たちは活動を通して郷土の魅力を再確認しました。

後日、パンフレットを受け取った方からは、礼儀正しく「生懸命PRする児童たちに宛てた応援のメッセージが届きました。



▲手作りパンフレットを配る明和小学校児童

水墨画の魅力を伝える
只見小学校で水墨画教室を開催

6月16日、国宝や重要文化財を数多くもつ大阪の「正木美術館」元館長で、水墨画を研究する美術史家・高橋範子先生の水墨画教室が只見小学校で開かれました。

今年で4年目となる高橋先生の教室は、高橋先生が持参した福島県にゆかりのある画家「雪村」が描いた、岩に座る老人・李白が滝を眺める絵「李白観瀑図」の貴重な水墨画を眺め、1〜3年生はその絵の滝の流れを描き、4〜6年生は岩に座り滝を眺める李白を描きました。児童たちは、高橋先生に習いながら上手に水の流れを墨のかすれや筆使いなどによって表現し、水墨画の魅力に触れることができました。



▲高橋先生に筆使いを習う児童の皆さん

朝日小児童の「只見愛」を育成
朝日小学校で「あすなる学級」

6月23日、地域と児童が交流を深める「あすなる学級」が朝日小学校で行われ、地域の方々5名が来校し全校児童と交流しました。

この事業は、朝日振興センターと朝日小が連携して行っており、地域の方々との交流を図りながら地域の良さを再発見し、「只見愛」の育成（ESD）を目的に取り組んでいます。

来校された地域の方々が講師となり、児童たちは低・中・高学年に分かれ、昔話や昔遊び、只見の自慢カルタを使ったカルタ遊び、手縫いによるぞうきん作りなどを学び、地域の文化に触れることで、「只見愛」を深めることができました。



▲(写真/1・2年生)講師の菅家ツヤさんと一緒に草笥を作る児童の皆さん